2010フジパンCUP 第16回関西小学生サッカー大会 最終日

西宮少年SS 初優勝

怪物、MF堂安が2ゴール

◇29日◇堺市立サッカー・ナショナルトレーニングセンター◇カップトーナメント（T）準決勝、決勝、プレート及びブロンズT各決勝と3位決定戦◇20分ハーフ

西宮少年SS（兵庫）が2―1で大阪セントラルFCを破り、初優勝を飾った。就任5年目の早野潤監督（58）が「怪物」と評するMF堂安（どうあん）律（5年）が全2得点の大活躍。個人に浸透した「考えて走るサッカー」の練習成果が大一番で発揮された。2年連続4度目の出場でつかんだ自信を胸に、今夏のU―12（12歳以下）全日本大会出場を目指す。

考えて走る

チームの攻守の要が決勝で爆発した。堂安が「関西NO・1MF」の呼び名にふさわしい躍動を見せた。1点を追う前半14分、左クロスをゴール右隅に突き刺し同点。後半8分には左CKに飛び込み、得意のヘッドで逆転弾だ。決めた瞬間、みんなで大喜びしながらハーフウエーラインへ猛ダッシュ。「得点が決められてうれしかった」とゴールの余韻に酔いしれた。

準決勝でも1得点し、今大会計8ゴールを奪った。他チームの関係者からは「小学生ではない。勝ててよかった」と声を弾ませた。

初優勝は就任5年目の早野監督が目指す「考えて走るサッカー」のたまものだ。就任直後に判断力向上やパス、ドリブルの精度を上げるため、監督が「シャングルドリブル」と名付けた選手20人による5対四方でのパス練習や、ボールを上に投げ上げた瞬間に左右を見てキャッチする練習などを導入。「パスの精度が上がり、判断力も養われている。それが結果として実ったんでしょう」と笑みを見せた。

そんな中、堂安も大きく成長した1人だ。昨夏に左サイドからボランチにコンバートされたが成功。ワンボランチの位置で、攻守の起点として暴れまくった。

浮かれない

目標とする今夏のU―12全日本大会に弾みをつけ、同時に自信も得た。だが、早野監督は「優勝はうれしいが、子どもがてんぐにならないよう気をつけます。ここで浮かれているわけにはいかないので」とキッパリ。5月に始まる全国大会の西宮市予選に向け気持ちを切り替えた。さらにパワーアップし、さらなる躍進を図るつもりだ。【菊川光一】

◆堂安律（どうあん・りつ）1998年（平10）6月14日、兵庫・尼崎市生まれ。幼稚園でサッカーを始め、小学3年で西宮少年SS入団。好きな選手はバルセロナのスペイン代表MFイニエスタ。得意なプレーはスルーパスとドリブル。夢はプロになり、海外でプレーすること。143センチ、42キロ。家族は両親と兄2人。

〈主催〉関西サッカー協会、日刊スポーツ〈後援〉朝日新聞社、朝日放送〈協賛〉フジパングループ

では関西で一番うまい」と評されている。大舞台でその力をいかんなく発揮した。

「1点先に決められたけど、パスがつなげていたので焦り

優勝を決めた西宮少年サッカースクールの選手たちは、笑顔で記念写真に納まる（撮影・岡潤一）上後半8分、FW西田のCKをヘディングでゴールした西宮少年サッカースクールMF堂安（7番）は、大喜びでピッチを駆ける

◇29日13時30分◇堺市立サッカー・ナショナルトレーニングセンター◇天候　晴れ◇観衆　350人◇主審　植田◇副審　三浦、大原

西宮少年SS 2（1―1、1―0）1 大阪セントラルFC

| | | |